

2018年度 京都薬科大学 ドイツ薬局研修 at Central Apotheke 体験談



本年2月、実務実習を終えた本学5年次の学生がドイツで薬局を運営されているアッセンハイマー慶子先生の下で研修を行いました。アッセンハイマー慶子先生には、2015年に本学でドイツの薬学・薬局事情をテーマにご講演いただいております、その時のご縁もあり、今回の研修が実現しました。これまでは、2・3年次生を対象とした「フライブルグ大学（ドイツ）」及び「MCPHS大学（米国）」のサマープログラムがありましたが、今回、5年次生を対象とした本プログラムの実施は、今後の本学における留学プログラムをさらに発展させていくうえでも有意義なものでした。

本特集では、引率の武上准教授と参加学生2名の報告をお届けします。

国際交流センター長 佐藤 毅

Feature article.

■ ドイツ薬局研修参加学生を引率して

2月5日（火）～2月17日（日）に本学で初めてドイツ・ロッテンブルク（アムネッカー）の薬局で5年次生の学生が研修をおこないました。実施した研修内容と研修に参加した学生の体験記をお届けします。

本研修は、ドイツで薬剤師としてご活躍中のアッセンハイマー慶子先生が開設されているセントラル薬局（Central Apotheke）にて実施されました。本研修の目的は、“医薬分業”発祥の国ドイツで、日本とは全く異なる医療制度を学び、健康サポート薬局・かかりつけ薬剤師とは実際にどのようなものなのかを体験することにより、自分の理想とする薬剤師像を思い描く1つのきっかけにしてもらうことです。

今回が初めての研修でしたが、9名の5年次生が参加してくれました。研修の主なスケジュールは下記の通りです。9名は3名ずつの3グループに分かれ、アッセンハイマー慶子先生、ドイツ人薬剤師、ドイツ人PTA（Pharmazeutisch-Technische Assistenten；薬学技術アシスタントの略 PTAは薬剤師と共に処方箋業務にあたる）の指導の下、①薬局業務一般、②OTC医薬品や処方解析等の調査、③ラボでの調合、といったドイツの薬局での業務をローテーションでおこないました。それぞれの具体的な内容は、①処方薬の箱出し調剤とピッキングマシンによる薬剤師業務の効率化、医薬品の購入・供給などを体験、②薬局内で疑問点を自ら見つけ、グループ内で考えをまとめ、アッセンハイマー慶子先生とディスカッション、③ハーブティーやハンドクリーム、制汗剤などをレシピに基づいて調合、です。学生たちは日本で実務実習を終えたばかりなので、自分たちの実務実習の経験に基づいた疑問について、業務終了後もアッセンハイマー慶子先生と実務的・科学的な観点でディスカッションをしていたのが印象的でした。また、ハーブティーの試飲会では、学生たちは薬局前の広場に出てドイツ語又は英語で積極的に声をかけ、現地の方と親密にコミュニケーションをとっていました。これら薬局業務以外にも、テュービンゲン大学薬学部やシュトゥットガルトのカタリーネン病院薬局の見学にも行き、日本の薬学部とのカリキュラムの違いや病院薬剤師の業務内容の違いに高い関心を示し、熱心に質問していました。約10日間の短い研修期間でしたが、学生の満足度も非常に高く、日本での実務実習で得られた体験とはまた違った忘れられない貴重な体験になったと思います。本学のタグラインは、「社会を動かす薬学へ。」です。本研修に参加した学生が将来、日本の社会に新風を吹き込み、日本にとどまらず世界を相手にグローバルに活躍できる人材になることを期待しています。

最後になりましたが、本研修にあたり、我々に対しドイツ滞在中の日常生活のサポートからドイツの薬局業務や薬剤師としての在り方について懇切丁寧、熱心にご指導下さったアッセンハイマー慶子先生をはじめ、セントラル薬局スタッフの皆様にこの誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

薬品分析学分野 武上 茂彦



研修終了時の集合写真



試飲会のためのハーブティーの調合

みき
■臨床薬学分野 5年次生 橋本 実季

「あなた達がぜひ日本の医療を変えてください。」アッセンハイマー先生がおっしゃった言葉が今でも印象に残っています。研修中、印象に残った出来事の二つを紹介します。一つ目は医院への薬の配達に同行した際、道中で地域の方に「アッセンハイマー！」と何度も声をかけられ、相談を受けておられる姿を見たことです。地域の方に親しまれ信頼を受けていると感じたと共に、本来のかかりつけ薬剤師のあるべき姿であると思いました。二つ目は3歳くらいの男児が薬局にふらっと立ち寄り、薬局に置いてある木馬に乗って遊び、薬局を後にする姿を見たことです。老若男女を問わず地域の方に親しまれ気軽に入れる薬局であると感じました。

(1)一つ質問する(2)一つアドバイスをする(3)一つ気遣いの言葉をかけるなど、小さな「一つ」が薬局と患者様との信頼につながり距離を縮めることを学びました。また薬局の日を制定し、手作りのフルーツティーをふるまうなど地域の方が楽しめる企画を用意することで、子どもの時から薬局に慣れ親しんでもらうことが、国民に薬剤師の必要性を認識してもらうことにつながるのではないかと考えました。

今回の研修では薬剤師及び薬局の在り方について新たな価値観を得ました。より患者様との距離を縮め、国民に薬剤師の必要性を認識してもらうことで、完全な医薬分業を実現し薬剤師の職能を発揮できる日本に変えていきたいです。



薬局内にある木馬

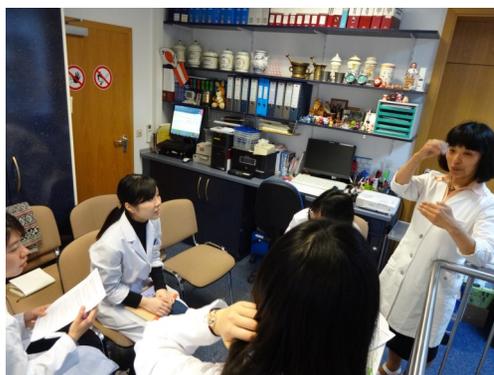


薬局があるロッテンブルクの朝の風景

■健康科学分野 5年次生 藤井 浩子

ドイツと日本の薬局・薬剤師の違いを知りたいという思いで今回のドイツ薬局研修に参加しました。研修では処方せん医薬品やOTC、ラボでの作業、大学薬学部・病院薬剤部の見学等を通じて、様々なことを学びました。特に機械による箱出し調剤、簡素な薬歴、医療保険制度が日本と大きく異なることが興味深かったです。調剤や薬歴に時間をかけない分、患者対応に専念することが可能になっていました。また、薬剤師が薬学的管理や情報提供に取り組むことで患者の支払う代金が高くなることはなく、支払いは薬剤費にのみ依存するドイツの保険制度は営利目的での医療の提供を阻止するように思いました。さらに、薬局は飾られたショーウインドー等により気軽に立ち寄れる雰囲気があり、スタッフと患者の関係は近く、より平等のように感じました。薬局での人形劇や試飲等のイベントおよびその広告により、薬局から患者に歩み寄る努力もしており、日本ではあまり見られない光景でした。これらのことが相まって薬剤師への信頼、社会的地位に影響を及ぼしているように思いました。

毎日学ぶことは全て新鮮で、毎日が充実していました。また、アッセンハイマー先生をはじめとするスタッフの皆さんには本当に良くしていただき嬉しかったです。ドイツで学んだことを活かし、私も立派な薬剤師になれるよう日々努力していきたいと思えます。



アッセンハイマー慶子先生(右)とディスカッション



箱出し調剤の様子

■ ドイツ薬局研修の主なスケジュール(11泊13日)

日付	主な内容
2月5日	11:00 関西空港出発(KLM航空)スキポール空港(アムステルダム)経由
2月5日	17:50 シュトゥットガルト空港到着、ミニバスで移動(50分間) 19:15 ロッテンブルク Hotel Anker宿泊開始
2月6日	午前:オリエンテーション セミナー1.「薬剤師の基本姿勢」 午後:グループ毎に薬局業務*
2月7日	◆チュービンゲン大学附属病院の散策 ◆チュービンゲン大学薬学部研究室訪問 ◆チュービンゲン旧市街散策
2月8日	◆セミナー2.「医薬分業とは？」 ◆グループ毎に薬局業務*
2月9日	◆セミナー3.「ドイツの薬局と薬剤師の義務」 ◆薬局内にハーブティーの試飲コーナー設置、ハーブティー配り
2月10日	《休日自由行動》
2月11日	◆セミナー4.「なぜドイツの薬局は、オールかかりつけ薬局なのか？」 ◆セミナー5.「これでドイツの薬局がわかる:薬局統計、マーケティング、ネット販売など」 ◆セミナー6.「次世代薬剤師のミッション」 ◆グループ毎に薬局業務* ◆血糖値測定実習 ◆医院・患者宅・高齢者施設同行 ◆翌日のプレゼン発表資料作成
2月12日	◆薬局業務(自己学修) ◆自己血糖測定 ◆小児医院への医薬品納品同行 ◆化粧品サンプル展示、価格ラベル貼り ◆グループ毎にプレゼン2回(1回目:日本語、2回目:英語) ◆夕食会
2月13日	◆シュトゥットガルト カタリーネン病院薬局見学、薬局長による 「病院薬局および病院薬剤師の役割について」のプレゼンテーション ◆シュトゥットガルト散策 ◆夕食会
2月14日	《休日自由行動》
2月15日	《休日自由行動》
2月16日	◆資料・研修修了証書授与 9:45 シュトゥットガルト空港出発(KLM航空)
2月17日	◆スキポール空港(アムステルダム)空港経由で関西空港 9:30到着→解散

*薬局業務(下の①~③の業務をグループ毎に日替わりでおこなった)

- ①店頭業務一般、医院や患者宅に薬の配送業務、納品業務
- ②疑問点調べ(薬局内をめぐり、OTC医薬品の規格の違いなど疑問に感じたことを見つけ調べる)、
処方解析
- ③ラボワーク(ハーブティー・ハンドクリーム・制汗剤・ビタミンCカプセル等の調合)



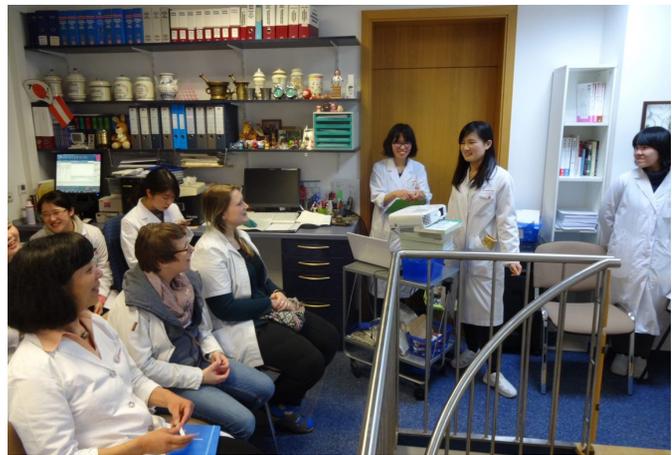
実習先薬局の外観



調剤監査システムの取り扱い講習



街頭でのハーブティー配り



各テーマごとのプレゼン発表



シュトゥットガルト最大のカタリーネン病院薬局



スイス チューリッヒ リンデンホフの丘にて